

製品に関する取り組み



気候変動問題、エネルギー問題への対応

2020年製品CO₂排出量原単位低減目標

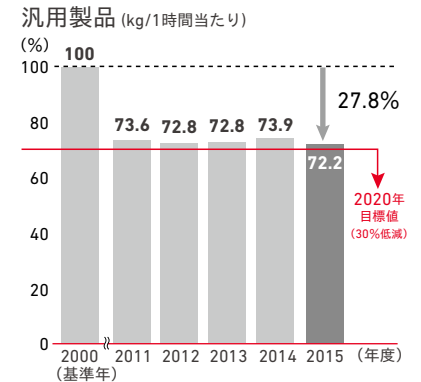
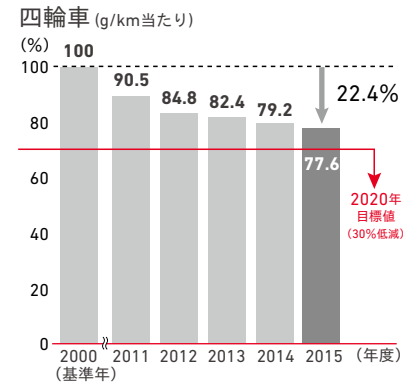
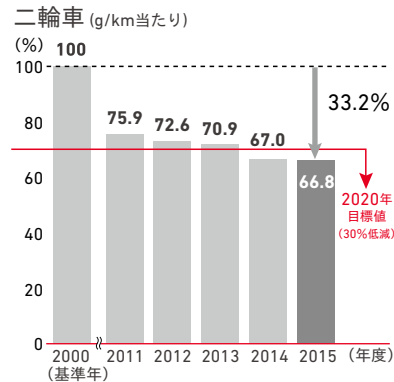
・Hondaの製品から排出されるCO₂の全世界平均値
 ・集計対象範囲：日本、北米、欧州、アジア・大洋州、中国、南米の各地域の国々を対象とし、二輪車・四輪車・汎用製品のそれぞれにおいてHondaの全世界の販売台数のおよそ90%以上を網羅する

Hondaの製品ライフサイクル全体のCO₂排出量は、「製品使用時」が全体の約8割を占めています。

そこでHondaでは、グローバルに生産、販売を拡大しながら、「CO₂排出ゼロ化」を実現するため、2020年までに二輪車、四輪車、汎用製品のCO₂排出量原単位を2000年比で30%低減する「2020年製品CO₂排出量原単位低減目標」を策定し取り組みを進めています。

なお目標の集計対象範囲は、日本、北米、欧州、南米、アジア・大洋州、中国の各地域の国々とし、二輪車・四輪車・汎用製品のそれぞれにおいてHondaの全世界の販売台数のおよそ90%以上を網羅しています。

また、製品・サービス情報やラベリング全般についての違反はありませんでした。

2020年製品CO₂排出量原単位低減目標に対する現在の達成状況

※2014年度まではエンジンごとの平均の使用時間、所要出力を用いてCO₂の計算を行っていましたが、2015年度より基準年にさかのぼり、機器ごとの使い勝手を考慮した使用時間、所要出力を用いて、より精度の高いCO₂計算を行っています。

TOPICS

「オデッセイ」「オデッセイ アブソルート」にハイブリッドモデルを追加

Hondaは、広い室内空間と風格のあるスタイリング、爽快で安定感のある走りなどで好評の上級ミニバン「オデッセイ」「オデッセイ アブソルート」にハイブリッドモデルを追加し、2016年2月に発売しました。Hondaの革新的なハイブリッドシステム「SPORT HYBRID (スポーツハイブリッド) i-MMD^{※1}」をHondaの上級ミニバンとして初めて搭載し、クラストップの燃費性能^{※2}となる26.0km/L (JC08モード)^{※3}を達成しています。システムの高効率化を徹底的に追求し、新たに開発したモーターは巻線方式と構造を刷新することで、従来型に比べて約23%の小型軽量化を図りながら、高トルク・高出力化を実現しています。さらに、リチウムイオンバッテリーを1列目シート床下へコンパクトに配置することで、オデッセイならではの広い室内空間や使い勝手といった特長はそのままに、優れた燃費性能と上質で力強い走りを実現しました。



オデッセイ

- ※1 i-MMDは「Intelligent Multi-Mode Drive (インテリジェント・マルチモード・ドライブ)」の略
- ※2 Honda調べ(2016年2月現在)、7/8人乗り、1.8L以上のクラス、全高1,600mm以上のミニバン
- ※3 「HYBRID」「HYBRID・Advancedパッケージ」「HYBRID・EXパッケージ」の国土交通省審査値(HYBRID・EXパッケージ(7人乗り)または「リアエンターテインメントシステム」を装着したHYBRID・Advancedパッケージ(7人乗り)は除く)

製品に関する取り組み

目標達成に向けた3つの取り組み

Hondaは、2020年までに二輪車、四輪車、汎用製品のCO₂排出量原単位を2000年比で30%低減することを目標とし、3つの取り組みを進めています。

具体的には、「①内燃機関の効率向上によるCO₂排出量の低減」「②環境革新技術の投入やエネルギーの多様化対応によるCO₂排出量の低減」「③再生可能エネルギーへの対応やトータルエネルギーマネジメントによるCO₂排出ゼロ化」です。それらを段階的に推進することで着実にCO₂排出低減を図り、最終的にゼロ化を達成するというシナリオを描いています。

また、自社製品が、これら3つの取り組みのいずれに対応する製品であるかを明確にする独自の基準「Honda環境性能基準(HEPS: Honda Environmental Performance Standard)」を2011年に設定。すべての自社製品を各基準のいずれかに適合させていくことで、CO₂排出ゼロ化に向けたシナリオの達成をめざしています。

2015年度に発売した製品の認定を行った結果、二輪車42モデル、四輪車10モデル、汎用製品9モデル、合計61モデルを新たにHEPS適合製品として認定。累計では二輪車136モデル、四輪車98モデル、汎用製品47モデル、合計281モデルがHEPS適合製品となりました。



内燃機関の効率向上技術



環境革新技術・エネルギー多様化対応技術



再生可能エネルギー対応技術

環境技術の進化



エネルギー技術の進化



● High Efficient Products

内燃機関の効率を向上させることでCO₂排出を低減した製品。エンジンの燃焼効率向上技術や駆動系の効率向上技術、エンジン内各部の摩擦を低減させる低フリクション技術などを採用した製品がこれに該当し、使用時のCO₂排出量が以前のモデルと比較してどれだけ低減しているかを適合基準として定めています。

● Innovative Products

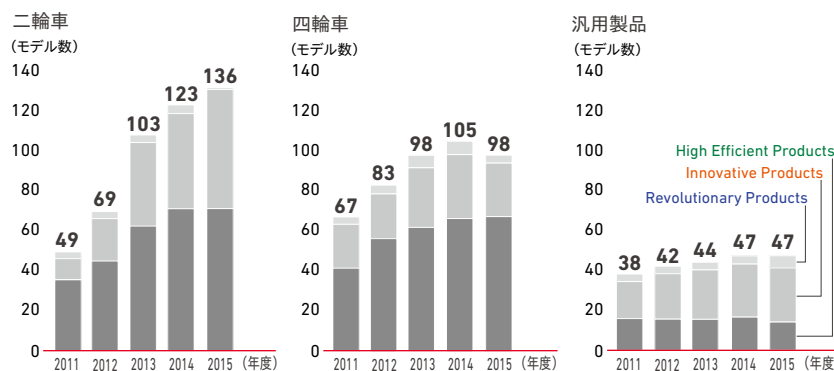
環境革新技術の投入やエネルギーの多様化対応により、CO₂排出を低減した製品。Honda独自の二輪車アイドリングストップシステム技術、四輪車のハイブリッド技術、直噴エンジン技術、汎用製品のFI(燃料噴射装置)

置)などの環境革新技術を搭載した製品や、二輪車・四輪車の Etaノール燃料対応製品、汎用製品のガス燃料対応製品などのエネルギー多様化対応を実現した製品がこれに該当します。使用時のCO₂排出量が以前のモデルと比較してどれだけ低減しているかを適合基準として定めています。

● Revolutionary Products

再生可能エネルギーへの対応やトータルエネルギーマネジメントへの貢献により、CO₂排出ゼロ化をめざしている製品。電動化対応技術や再生可能エネルギーの使用技術を採用した製品がこれに該当します。

HEPS 適合モデル数の推移 (グローバル)



地域別 HEPS 適合モデル数 (2015年度)

